

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	令和7年12月26日 (第3回)
目標年度	令和17年度
市町村名 (市町村コード)	神戸市 (28100)
地域名 (地域内農業集落名)	神出地区 (新々田集落)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	53.0 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積(宝勢全体・新々田含む)	214.3 ha
② 田の面積	52.0 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	1.0 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	1.3 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	27.6 ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

- ・農地の維持管理が高齢化に伴い困難になっていることや今後の農業の効率化を考えると、集約化や組織での営農を検討したほうが良いが、現状効率化を進めていく人材がいないため、段階的に解消していく必要がある。
- ・集落内の耕作者の人口減少と高齢化などが起因となって、草刈りをはじめ共同作業や農作業ができなくなってきており、耕作放棄地が増加している。
- ・現在の農業収入では、燃料と肥料などの資材費高騰や税金と水利費などの固定費が負担であると同時に、新しい農業用機械を購入することや既存機械や水路、パイプラインの修理が困難である。こういった状況から、子どもや後継ぎに農業を続けてもらうことは難しく、水路やパイプラインを管理できる人材も少なくなっている。
- ・地区内には、1件の営農法人があり地域の農業の担い手と担い手の育成機関として期待している。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

- ・地域農業の活性化を図るため新しい作物として、給食米、飼料米、酒米、米粉用米、ミルキーQueen、各種フルーツ(パッションフルーツ)、しょうが、落花生、食物アレルギー対策作物の導入を検討する。
- ・米(コシヒカリ)やスイートコーン、プロッコリー、キャベツ、飼料作物を主要作物としながら、特産品であるイチゴや枝豆、トマトの生産方法を段階的に確立していく。
- ・地区内の若手や近郊のニュータウンなどから、農業を担う者を募り地域全体の農地が利用できる仕組みの整備をすすめる。
- ・地域で作業受託ができる仕組みづくりをすすめる。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
<ul style="list-style-type: none"> ・将来的に耕作者・後継者がいる農地・いない農地を集落として俯瞰的に把握・共有する。 ・耕作者のいない農地について、今後、誰がどのように耕作・管理していくのかを協議し、耕作者のいる農地については、必要に応じて農地の集約化を検討する。 			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	35.4	%	将来の目標とする集積率
			40 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
目標地図に示した範囲を集積していくことにより、段階的に団地面積を拡大していく。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組		
・耕作できなくなった農地などを段階的に集約化していき農地の団地化や面積の拡大を図りつつ、新規就農者や企業の農業への参入をすすめていく。		
(2)農地中間管理機構の活用方法		
・必要に応じて検討する。		
(3)基盤整備事業への取組		
・次の世代が安心して農業ができるように、パイプラインの点検整備は怠らないようにする。		
・ITを活用した農業を検討する。		
(4)多様な経営体の確保・育成の取組		
・貸し農園の拡大や農業体験など、近郊のニュータウンから農業に関心のある人を見つけ確保し、農業の担い手として育成していく。		
・地域の若手で組織されている団体を対象に、農業研修を開催する。		
・機械等の貸し借りや、共同利用を検討する。		
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組		
・地域で作業受託ができる仕組みを整備していく。		
以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)		
<input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業
<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等	
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設
<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他	
【選択した上記の取組内容】		
・多面的機能交付金の活動を通じて、水路、ため池の保全や遊休農地の有効活用を地域で一体的に取り組む。		

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 17 年度)				
		経営作物等	経営面積	作業受託面積	経営作物等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農		水稻、野菜	47.9 a	a	水稻、野菜	47.9 a	a	1	
利用者		水稻、飼料作物	79.2 a	a	水稻、飼料作物	79.2 a	a	2	
利用者		水稻、野菜、飼料作物	4.8 a	a	水稻、野菜、飼料作物	4.8 a	a	3	
利用者		水稻、麦、大豆	45.6 a	a	水稻、麦、大豆	45.6 a	a	4	
利用者		水稻、野菜	21.0 a	a	水稻、野菜	21.0 a	a	5	
利用者		水稻、野菜	1.3 a	a	水稻、野菜	1.3 a	a	6	
利用者		水稻、野菜	132.6 a	a	水稻、野菜	132.6 a	a	7	
利用者		水稻、野菜	104.4 a	a	水稻、野菜	104.4 a	a	8	
利用者		野菜	10.3 a	a	野菜	10.3 a	a	9	
利用者		水稻、野菜、麦、大豆	23.8 a	a	水稻、野菜、麦、大豆	23.8 a	a	10	
認農		水稻、野菜	126.4 a	a	水稻、野菜	126.4 a	a	11	
利用者		水稻、野菜	15.8 a	a	水稻、野菜	15.8 a	a	12	
利用者		水稻、野菜、飼料作物、麦、大豆	17.5 a	a	水稻、野菜、飼料作物、麦、大豆	17.5 a	a	13	
利用者		水稻、野菜、麦、大豆	50.0 a	a	水稻、野菜、麦、大豆	50.0 a	a	14	
利用者		水稻、飼料作物	19.5 a	a	水稻、飼料作物	19.5 a	a	15	
利用者		水稻、野菜	73.2 a	a	水稻、野菜	73.2 a	a	16	
認農		水稻、野菜、花	218.0 a	a	水稻、野菜、花	218.0 a	a	17	
利用者		水稻、野菜	7.3 a	a	水稻、野菜	7.3 a	a	18	
利用者		水稻、野菜	60.5 a	a	水稻、野菜	60.5 a	a	19	
利用者			6.6 a	a		6.6 a	a	20	
利用者		水稻、野菜	145.6 a	a	水稻、野菜	145.6 a	a	21	
認農		水稻、野菜、飼料作物	78.8 a	a	水稻、野菜、飼料作物	78.8 a	a	22	

認農		水稻、花、飼料作物	1,385.5	a	a	水稻、花、飼料作物	1,385.5	a	a	23	
利用者		野菜	17.2	a	a	野菜	17.2	a	a	24	
利用者		果樹	10.0	a	a	果樹	10.0	a	a	25	
利用者		水稻	24.1	a	a	水稻	24.1	a	a	26	
認農		野菜	21.6	a	a	野菜	21.6	a	a	27	
利用者		野菜	2.4	a	a	野菜	2.4	a	a	28	
利用者		野菜	10.3	a	a	野菜	10.3	a	a	29	
計			2,761.3	a	a		2,761.3	a	a		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者（農協を除く）は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。

注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。

注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。